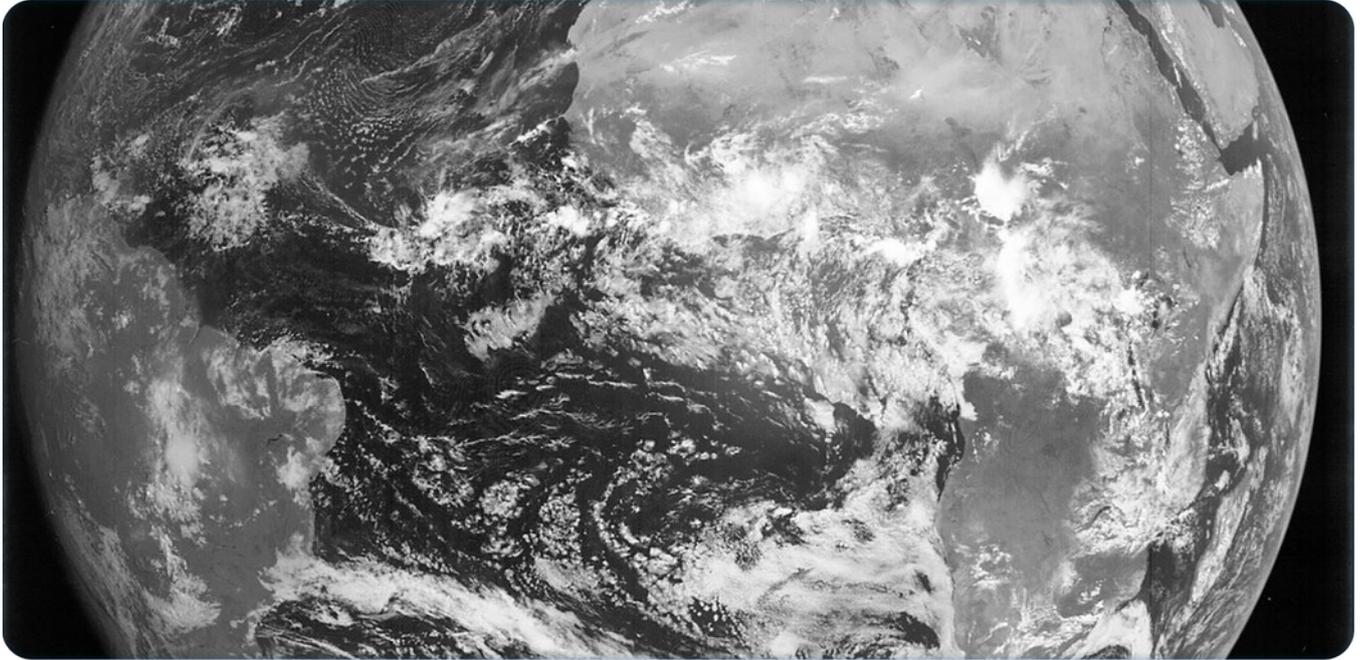




古くなった人工衛星って、どうなるの？



地球のまわりには何千もの人工衛星が飛んでいます。しかし他のものとおなじで人工衛星だっていつかはこわれます。燃料は限られているし、宇宙の厳しい環境で傷むのもはやいです。

人工衛星がもう使えなくなったときは、他の衛星を傷つけないように、充分（じゅうぶん）注意する必要があります。

地球の一番近い軌道（きどう）をまわっているものの場合、もっと地球に近づくようにコントロールされず。そして役目が終わったとき（普通25年以内）、それらは大気圏（たいきけん）に再突入（さいとつにゅう）して燃えつきます。

しかし地球から遠いところをまわっている人工衛星では、これは不可能です。それらを地球の大気圏までもどすのに必要な燃料まで積みこむと、衛星を打ち上げるときに重すぎてしまうでしょう。かわりに彼らの人生に終わりがくると、衛星たちは“墓地”軌道に送られます。

墓地の軌道は、一般の衛星の軌道をはるかにこえた宇宙空間にあります。そこならまだ動いている他の衛星と衝突（しょうとつ）しません。

これは今月、メテオサット7という、とても活やくした衛星に実際におこったことです。この衛星は、計画より15年以上も長い、約20年間動いて、次のあたらしい、そして最終的な休けい場所、すなわち墓地の軌道に向かって操縦されています。

メテオサット7は地球全体をカバーしている気象衛星群の一つで、それらの衛星は天気予報や災害警報をだすのに役立っています。どんなモンスーン（季節風）や吹雪（ふぶき）でも、これらの衛星にキャッチされないものはありません。そして何千人もの人々の生命を救うのに役立っています！

COOL FACT

墓地の軌道にある衛星の数は、すでに数百にも上ります。毎年新しい宇宙船が打ち上げられ、この地域も混雑する可能性があります。科学者たちは古い衛星の除去や回収をふくめて、この問題の永続的な解決策を探しています。

